

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価書

令和4年2月9日（水）

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和4年2月4日（金）…本年度は、コロナ禍のため紙上提案

参加者：学校評議員 ：森澤ひとみ ・ 篠原美代子 ・ 碓井 和幸
 小尾 平明 ・ 萩原 健一

P T A会長 ：手塚 友巳

学校側 ：校長 進藤 雅一 ・ 教頭 坂本 なおみ
 主幹 久保田 勲 ・ 生指 春日 秀一

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

- 1 全体の概要について
 - （1）教職員自己評価について
 - ほとんどの設問で肯定的評価が95%以上であり、昨年度同様、教職員自己評価が良好であること。
 - （2）小学生アンケートについて
 - 「学校は楽しいですか」の肯定意見が約87%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。
 - （3）保護者アンケートについて
 - 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約95%以上であり、好意的な評価であること。
- 2 学校教育目標・学校経営について
 - 学校教育目標をもとに学校教育活動がなされ一定の成果を得ている。より効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指していくために、カリキュラムマネジメントについて全教職員の理解を深められるよう研修を行っていくこと。
 - 多様な子供たちを誰一人取り残すことがないように、教職員間での情報共有を確実に行之、学校体制で取り組んでいくこと。
- 3 学校運営について
 - 学校徴収金の口座振替等、業務の効率化を図ることができたこと。

- 教職員への「危機管理マニュアル」の周知、活用していくとともに、常にマニュアルの見直しと充実を図っていくこと。
- ICTを活用して、主体的・対話的で深い学びの実現を行ってきた。その成果を再度フィードバックすることで、指導力の向上につなげていくこと。

4 学習指導について

- ベテランと若手教員が学年で協働してきたことで、授業力の向上や学びの意欲喚起や基礎・基本の定着を図る授業の充実を図ることができたこと。
- やまなしスタンダードで求められている「めあて」の明確化を意識した授業作りを今後も実践していくこと。
- 観点別評価規準を明確にした授業を行えるようにすること。
- 「家庭学習の手引き」などを活用し、自主学習の取組など、保護者と連携を図りながら家庭学習への指導の充実を図ること。

5 生徒指導について

- 「明るく元気な竜の子15箇条」を基盤に、規律ある生活習慣や学習習慣の構築が竜王小の伝統として引き継がれていること。
- キャリア教育に関わって、外部人材を積極的に活用したり、校外学習やオンライン学習の取組を行ったりして、社会参画意識を高めていくこと。
- 児童の問題行動については、早期発見に努め、組織的な対応ができるよう、SCやSSW、市の子育て支援課、県の児童相談所と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていくこと。

6 地域との連携について

- コロナ禍の中、実施できない多くの事業があったが、保護者や地域住民による登下校の見守り等で協力を得ることができたこと。
- 学校からの情報発信として、安心メールとホームページを積極的に活用することで開かれた学校としての説明責任を果たしていくこと。
- 次年度は創立150周年を迎える。これまでの実績を生かしながら、PTA主催行事の取組を継続し、活性化を図る策を探っていくこと。
- 「竜小協力者会議」等の地域連携事業については、次年度以降も確実に実施できるように、引継ぎを行うこと。

7 学校の特色に関して

- 来年度以降も「チームドラゴン」として、特色のある、地域のリーディングスクールとしての役割を果たしていけるよう、全教職員一丸となって取り組んでいくこと。

8 創甲斐教育について

- 「ほめ言葉のシャワー」など、よさをみとる教育活動をこれからも推進していくこと。
- お便り等での働きかけだけでなく、運動会の表現の配信など体づくりを家庭と連携していけるよう取り組んでいくこと。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- コロナ禍で、通常とは違う状況下においても、教職員が一丸となって教育目標の具現化に努めていることがわかった。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- P D C Aサイクルによる教育活動を定着させていきたい。
- 地域社会と支援体制を組みながら協働して、効果的、効率的な教育活動を推進してほしい。

II 学校運営について

- 教職員一人一人が危機管理意識をもって教育活動を行っていくことが大切である。
- これからもベテランと若手の教職員が、互いの良さを生かしながら力を合わせ、日々の教育活動に邁進してほしい。
- 働き方改革を意識して職務にあたってほしい。

III 学習指導について

- 児童とふれあう時間を確保するために、積極的に外部の人材を活用するとよい。

IV 生徒指導について

- 今後も保護者や地域とのコミュニケーションを深め、子供を見守っていく必要がある。

V 地域との連携について

- 地域にとって子供たちは「宝」である。可能な限り学校行事への協力を仰ぎ、学校、保護者、地域全体で学校を盛り上げてほしい。

VI 学校の特色について

- 達成状況が昨年度から下がっている。コロナ禍の中、「竜王小学校らしさ」について、教職員で確認し、学校、保護者、地域住民が協働しながら、学校の活性化を図っていかなくてはならない。
- 常に子供ファーストの姿勢を大切に、教育活動を推進してほしい。
- I C Tを活用した教育実践を積み上げ、学校の特色化を図るとよい。

VII 創甲斐教育について

- 「ほめ言葉のシャワー」は人間形成の上でとても大切なので、継続するとよい。
- 話し方スキルを定着させ言語活動の充実を図っていくとよい。

3 今後の課題として確認されたこと

- カリキュラムマネジメントによる確実なP D C Aの実施
- 学校体制で取り組む特別支援教育
- 危機管理マニュアルの的確な運用
- 校内研究の確実なフィードバック
- 観点別評価規準の設定とその評価方法の研修
- 家庭学習と連携した学びの啓発
- 社会参画意識を高めるキャリア教育の実施とキャリアパスポートの効果的な活用
- 問題行動の早期発見・早期対応のための校務効率化と組織連携
- 安心メールと学校ホームページのより効果的な活用
- P T A主催行事の取組の継続
- 協力者会議を中心とした地域との連携の引継ぎ
- 長所を伸ばし、短所を改善することによる特色化
- 創甲斐教育の具現化のための教職員研修による一貫した指導体制の確立

※特記事項

- 特になし